



## 「自己効力感を育む」

校長 小寺 恵理子

5年生が丹精込めて育てている稲が黄金色に実りはじめました。日が落ちると草むらからは虫の声が聞こえてきます。気温も下がり、ようやく秋らしくなってきました。子供たちは、運動会に向けてそれぞれ一生懸命練習に取り組んでいます。朝の会では子供たちが「運動会の歌」を元気よく歌う声が聞こえてきて、運動会に向けて子供たちの気持ちの高まりを感じています。



### 【ベランダで実った稲】

小学校では、子供たちのより良い成長のため様々な教育課程を編成し、学校行事を計画しています。「できた」という経験は子供にとって嬉しい経験ですが、全てのことができたりうまくいったりすることはほぼないでしょう。むしろ失敗したり挫折したりすることのほうが多いかもしれません。失敗を学びの機会と前向きに捉え、そこから何を学べるかを子供と一緒に考えることが大切だと思います。子供たちは保護者の方々や周囲の人々から愛情を受け、様々なことを学びながら成長していきます。その過程で家族や社会のルールに触れて自分の思い通りにならないことやできないことにであい、小さな挫折を経験することで折り合いをつけて我慢したり、努力して乗り越えたりする力を養っていきます。「自己効力感」とはカナダの心理学者が提唱した概念で、「自分の能力を信じている」「自分ならできる」という感覚を持っていることだそうです。できないことに直面した時、あきらめたり落ち込んだりするのではなく、自分ならできると信じて、努力する気持ちを高めることが大切です。そのためには子供たちの近くにいる大人の関わり方が重要であると考えます。困難なことが起こった時に、子供のために目の前の困難を取り除くのではなく、困難に直面した時に起こる不安やストレスに対応し、乗り越える力が育つよう励ましたり時には慰めたりすることが必要だと考えます。

今年度の運動会も本町小ではプログラムを工夫し、徒競走・団体競技・表現を行います。徒競走では学年に応じて走る距離や直線、曲線などコースが変わります。走ることが得意な子も苦手な子もいる中で、それぞれが力を精一杯出し切り、取り組むことが大切だと考えています。5、6年生は運動会の運営に関わる係活動にも取り組みます。行事を通して、子供たちの成長する姿がみられることは、大変嬉しいことです。徒競走や団体競技では、負けて悔しい思いをすることがあるかもしれませんが、ぜひ「自己効力感」が高まる声掛けをお願いできればと思います。子供たちにたくさん励ましと温かい拍手をお願いします。

今年度は、6年ぶりに第二中学校の有志の皆さんがボランティアとして運動会のお手伝いに来てくれます。10月末には、小中連携の一環として第二中学校との交流会も計画しています。卒業生の皆さんの姿を見て、自分の将来の姿を想像して本町小の子供たちがよりよく成長することにつながってほしいと思います。